

コミュニティカレッジ学生、半数以上が空腹・ホームレス状態に陥る危険性（12月4日）

ウィスコンシン大学マディソン校（University of Wisconsin at Madison）の教育政策研究・社会学教授のサラ・ゴールドリック・ラブ氏（Sara Goldrick-Rab）を中心とする研究チームは12月4日、コミュニティカレッジ学生の空腹及びホームレスという2つの問題を取り上げた報告書「学習への渴望 ～大学生における食事・住居の不安定性への対策～（Hungry to Learn : Addressing Food & Housing Insecurity Among Undergraduates）」を発表した。本報告書は、ニューヨーク州、ニュージャージー州、カリフォルニア州、ペンシルバニア州、ルイジアナ州、ウィスコンシン州、及びワイオミング州に所在するコミュニティカレッジ10校の学生約4,300人を対象に行った調査結果に基づいて作成されたものである。これによると、学生の20%は、過去30日間において金銭的な理由で空腹のまま過ごしたことがあり、13%は、過去1年間においてホームレス状態になったことがあると回答した。また、約半数の学生は、空腹・ホームレス状態に陥る危険性があったと回答した。大半の学生は学資援助を受給し、就労もしているが、それでも不十分であると回答している。

なお、本報告書は、<[http://wihopelab.com/publications/Wisconsin\\_HOPE\\_Lab\\_Hungry\\_To\\_Learn.pdf](http://wihopelab.com/publications/Wisconsin_HOPE_Lab_Hungry_To_Learn.pdf)>からダウンロード可能。

The New York Times, *Hungry, Homeless and in College*

<http://www.nytimes.com/2015/12/04/opinion/hungry-homeless-and-in-college.html>